CONTENTS

特色GPとは？
学長・学部長あいさつ
経済学基礎知識1000題とは？
- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」
特集2「政策学基礎知識1000題」
特集3「ブレンデットラーニング」授業体験
教員VOICE
- 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE
- 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容
イベント情報
イベント開催報告
今後の展開
お問い合わせ

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

「教員VOICE」では、経済学部各教員の担当する授業でのCCS「経済学基礎知識1000題」の利用方法などをリレー形式で毎月1人ずつ紹介します。

経済学部長
木船久雄 教授
- 前編 06.11.06 UP!
- 後編 06.11.15 UP!

経済学部
児島完二 助教授
- 前編 06.12.01 UP!
- 後編 06.12.15 UP!

経済学部
仮屋篤子 講師
- 前編 07.01.12 UP!
- 後編 07.02.01 UP!

経済学部
伊沢俊泰 教授
- 前編 07.03.01 UP!
- 後編 07.03.15 UP!

経済学部長 木船久雄 教授 ～前編～

社会の変化を予見する学問「経済学」とは

みなさんは「経済学」とは、どのようなことを学ぶ学問だと思っていますか？経済と聞くと少し難しい言葉がイメージされるかもしれません。簡単にいうと経済学とは、モノやサービスを売ったり買ったりする経済活動のメカニズムを分析する学問。経済のメカニズムを知っていれば、経済的な動きに対して「次はこうなる」という先読みができます。政府や企業も、経済のメカニズムを利用して政策や戦略を行うこともあるのです。

私の担当する科目「資源経済学」も「資源」について経済学的ツールを用いて分析する学問です。ここでいう「資源」とは、石油や石炭、電力、天然ガスなど。世界の原油の埋蔵量が富士山1個分もないことをご存じでしたか？授業では、農作物や鉄鉱石についても対象としています。どう経済学的に分析するのかというと、例えば、なぜ原油価格はすぐに値段が上がったり、下がったりするのか？、ガソリン価格が上昇しても消費量がすぐに減らないのはなぜか？、所得とエネルギー消費の関係といったことをテーマに授業を進めています。

授業で必要な基礎知識を「経済学基礎知識1000題」でフォロー

経済学は、大きくマクロ経済学とミクロ経済学に分かれます。マクロ経済学とは、国や地域の経済全体を分析対象とし、例えば政府が行うべき景気対策はどうあるべきか、アメリカ経済が日本経済に与える影響などを探ります。ミクロ経済学とは、個別の財市場（食べ物や服から株式、自動車まで、買い手と売り手が存在する状態）を分析対象とします。例えば、野菜の値段はどうして変動が激しくて、自動車の値段はそうではないのか？、映画館の子ども料金はなぜ安く設定されているか？ということを理論付けて説明します。

経済学的ツールを用いて「資源」について分析するためには、経済学の基礎科目である「マクロ経済学」や「ミクロ経済学」の知識が不可欠です。資源経済学は、これらを1年次に学んだ2年次以上が履修する科目ですが、一度は、経済学の基礎科目を学んだ経験があるとはいえ、2年次生の経済学に関する理解度は一様ではありません。

そこで、「経済学基礎知識1000題」の中の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の特定範囲を指定して、履修学生たちにその分野の自学自習を促します。「経済学基礎知識1000題」が存在するからこそ可能となる効果的な復習方法です。耳慣れない言葉や初めて学ぶ概念は、繰り返し学ぶことでその意味が理解でき、自分の頭脳に定着するものです。

このページのトップへ

経済学部長 木船久雄 教授 ～後編～

CCS、自学自習システムを最大限に活用

私が担当する「資源経済学」の授業形式は、プロジェクターを用いたプレゼンテーションスタイルを採っています。黒板はほとんど使いません。講義内で使ったプレゼンテーション・ファイル（講義ノート）や紙の資料は、すべてCCSの授業資料にアップロードしています。また、出欠調査を行わない代わりに、CCSの「授業アンケート」を利用しています。これは、その日の講義テーマにかかわる重要項目について学生たちに質問を投げ、回答をネット上から受け取るというものです。さらに、授業内容に従って学期中に2～3回の小テストを行っています。「資源経済学」用の自学自習コンテンツは、授業の進度に合わせてCCS上に開放していますから自学自習問題を解くことが小テスト対策になります。

今後は「資源経済学」用の自学自習コンテンツを拡充すること、授業のビデオ配信を可能とすること（現在収録中です）が当面の目標です。「経済学基礎知識1000題」と経済専門科目のコンテンツを有機的に結びつけながら、自学自習システム利用の工夫を図っていきたいと考えています。

ゲーム感覚で楽しみながら利用してほしい

もし私が「経済学基礎知識1000題」を利用する立場だとしたら、授業科目の試験対策に使うことはいうまでもなく、公務員をめざしていれば全問正解を出すくらい繰り返し解きます。また、出題する教員が特定できるので、わからない問題はCCSを通して問い合わせたり、それをチャンスとして教員の研究室に質問に行ったりしますね。
利用者の方々には、学内に情報コンセントがいたるところにあるので、友人達とゲーム感覚で「解答ごっこ」を楽しんでもらえたらと思います。

名古屋学院大学 経済学部は、愛知県の私立大学では最も伝統と歴史のある学部です。「経済学基礎知識1000題」もそうですが、学部全体で真剣に学生の教育に取り組んでいます。入学してきた学生が持つ潜在的能力を引き出しながら、彼らを入学時以上に高い社会的評価を持つ学生へと育てています。卒業時には、名古屋学院大学経済学部に入学して本当によかった、と必ず思ってもらえるはずです。

Next >> 児島完二助教授インタビュー

このページのトップへ

Copyright© 2007 NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY All Rights Reserved.

CONTENTS

- 特色GPとは？
- 学長・学部長あいさつ
- 経済学基礎知識1000題とは？
  - 選定理由・これまでの取組
  - 教育効果を上げる工夫
  - 自学自習システムの活用
  - 自学自習システムの有効性と成果
  - 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!
- 特集1「進化する自学自習システム」
- 特集2「政策学基礎知識1000題」
- 特集3「ブレンデッドラーニング」授業体験
- 教員VOICE
  - 教員から見た経済学基礎知識1000題
- 学生VOICE
  - 学生の利用方法・利用成果
- 2007年度 活動内容
- イベント情報
- イベント開催報告
- 今後の展開
- お問い合わせ

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

「教員VOICE」では、経済学部各教員の担当する授業でのCCSI「経済学基礎知識1000題」の利用方法などをリレー形式で毎月1人ずつ紹介します。

経済学部長
木船久雄 教授
- 前編 06.11.06 UP!
- 後編 06.11.15 UP!

経済学部
児島完二 助教授
- 前編 06.12.01 UP!
- 後編 06.12.15 UP!

経済学部
仮屋篤子 講師
- 前編 07.01.12 UP!
- 後編 07.02.01 UP!

経済学部
伊沢俊泰 教授
- 前編 07.03.01 UP!
- 後編 07.03.15 UP!

経済学部 児島完二 助教授 ～前編～

教材はWeb上にアップロード

私が担当する経済学専門科目の「パソコン統計」は、毎回ノートパソコンを活用した実習科目です。授業中にもパソコンとネットワークを活用していることから、全員が簡単にCCSIや自学自習システムにアクセスできます。CCSIの多彩な機能を使うことで、効率よく授業が展開できます。

この科目をはじめとする実習科目は、Webサイトに教材すべてをアップロードしています。そして、CCSIにはシラバスや自学自習問題をおいておき、出席カードや授業アンケート、電子アナライザなどの教育支援システムを活用しています。また、学外のWebサービスですが、「LiveTIES」で毎回授業のビデオ収録・配信をしています。このように授業内容はできるだけオープンにするとともに、ネットの利点を生かし面倒な媒体での管理を極力省くことができました。

さまざまな自学自習システムの利用法

実習における進行の時間調整に利用しています。内容の理解やパソコンの操作が遅い学生に個別対応する際に、「経済学基礎知識1000題」は役立ちます。パソコンが得意で、授業内容を十分理解できる学生にとっては演習時間をもてあます場合がありますので、そのときに「経済学基礎知識1000題」の自学自習を薦めます。いずれも簡単な五択形式ですので、気軽に解くことができます。短時間でも数問解くことができ、時間を有効活用できます。このように全員が理解できるまでの補助的な教材として利用しています。
パソコン統計の授業内容とかかわりのある範囲(「データ処理」など)を教員がリンクで指定することができるので、学生はどこを学習すればいいのかがすぐにわかります。無駄のない的確な指示ができて、とても有効です。

また、学生一人ひとりのケアに役立ちます。どれだけ学習したかという履歴がデータベースに蓄積されますので、遅れがちな学生の学習状況の確認に利用しています。簡単な基本問題を何度も繰り返し、基礎を身に付けて欲しいということで、必要な自学自習の範囲を伝えます。実際に設問を解いているかどうか気になりますが、履修者名簿から簡単にチェックできるので、とても助かります。

このページのトップへ

経済学部 児島完二 助教授 ～後編～

ランキング機能で学生同士が競争

受講生に自学自習のインセンティブを持たせるため、定期試験に類似問題を20点分ほど出題することにしています。すると、教員側が想定した以上に解いている学生も少なくありません。特に一生懸命取り組んでいるのは、データを見る限りでは、試験に自信のない学生が多いように思われます。

また、CCSIには自学自習の設問を基にした小テスト機能があるので、授業中に確認としてCCSIの小テストを実施することもあります。小テストは自学自習の10分以内で実施できるので、授業進度に余裕があるときには、抜き打ちでやることもあります。(抜き打ちテストは、学生に評判が良くありませんが・・・)

そして、受講生の中には、自学自習にあるランキング機能に夢中になる学生もいます。どうしても一番になりたいということで、同じ範囲を何度も繰り返し解答するという学生がいます。順位はハンドルネームで表示されますが、そのランキング結果を見て、悔しがったり、喜んだりというような光景がたまにみられます。

全学生がこのシステムを活用してほしい

経済学部をはじめ全学生が、日頃から「経済学基礎知識1000題」や自学自習にアクセスするような習慣がつくことを期待しています。このようになれば、CCSIに組み込まれている多彩な機能がいっそう活用されることになります。授業はじめ大学内のコミュニケーションが活発になり、これまで以上の展開が可能となります。

そして、「経済学基礎知識1000題」の主旨通りに基礎知識が確立するので、授業はこれまで以上にやりやすくなると思います。つまり、学生間に存在する知識の差が、ある程度埋まることで、教える側にとって最低ラインを意識して教えることができるようになります。学習データを分析することによって、学生に適した授業のレベル調整ができるようにしたいと考えています。

さらに、基本的な設問をITで相互利用することが簡単にできるようになりました。これを進めると科目間の内容が有機的に結合し、学生も体系的に学習ができるようになります。「教材の共有化」にはこのような効果が期待できます。そして、この基盤となるのが「経済学基礎知識1000題」と考えています。

Next >> 仮屋篤子講師インタビュー

このページのトップへ

Copyright© 2007 NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY All Rights Reserved.

CONTENTS

特色GPとは？
学長・学部長あいさつ
経済学基礎知識1000題とは？
- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」
特集2「政策学基礎知識1000題」
特集3「ブレンデットラーニング」授業体験
教員VOICE
- 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE
- 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容
イベント情報
イベント開催報告
今後の展開
お問い合わせ

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

「教員VOICE」では、経済学部各教員の担当する授業でのCCS「経済学基礎知識1000題」の利用方法などをリレー形式で毎月1人ずつ紹介します。

経済学部長
木船久雄教授
- 前編 06.11.06 UP!
- 後編 06.11.15 UP!

経済学部
児島完二助教授
- 前編 06.12.01 UP!
- 後編 06.12.15 UP!

経済学部
仮屋篤子講師
- 前編 07.01.12 UP!
- 後編 07.02.01 UP!

経済学部
伊沢俊泰教授
- 前編 07.03.01 UP!
- 後編 07.03.15 UP!

経済学部 仮屋篤子 講師 ～前編～

「民法」は生活にかかわる身近な法律

私の担当科目は「民法」です。民法とは、市民生活における市民相互の関係(財産関係、家族関係)を規律する法律です。民法を学ぶことは、公務員試験や資格試験の取得などにかかわって重要となる場合もありますが、民法を学ぶこと自体、これからの人生にとって非常に意味のあることです。経済学部の学生に限らず、市民として知っていなければなりません。

民法は生活に密着した法律ですので、何気なく日常生活で行っている行動にも、法律的に見て非常に意味のある行動をしている場合があります。高校生に興味があるのは、やはり「未成年者の法的立場」についてでしょうか。未成年者はなぜ、契約をするときにひとりではできず、親の同意のサインが必要なのか？親の同意がなく契約をすることは絶対にできないのか？親が同意しないで契約をすると、どうなるのか？など、日常、当たり前だと思っていたことに、きちんとした法律的な意味があるのです。

講義内容の復習と確認で自学自習システムを利用

経済学部で教える法律ということで、そもそも法律自体に興味を持ってもらうことが第一の目標です。そのためにも、さまざまな法律問題を例に挙げて、民法を身近に感じてもらうことが大切だと思っています。例えば、駅前で自分の自転車が盗まれました。それから数年たって盗まれた自転車を隣町の本屋の駐輪場で見つけたとき、あなたならどうしますか？その場で乗って帰ってきてしまうでしょうか？「自分の物を取り戻すのだから、問題はない」。そう思いますか？実は問題があるのです。「なぜ？どうして？」という疑問が浮かんだら、民法を勉強してみましょう。

授業は時間が限られているため、十分な数の事例を挙げることができません。また、大教室での講義は、ともすれば一方通行になりがちで、本当に必要なことを学生に知識として植え付けることはなかなか困難です。そのため、自学自習システムを利用し、講義内容の復習と確認ができるようにしています。

このページのトップへ

経済学部 仮屋篤子 講師 ～後編～

定期試験に出題される問題をゲーム感覚で解ける

自学自習システムの利点は、自宅で気軽に、ゲーム感覚で勉強ができるところです。民法については「経済学基礎知識1000題」では、教科書的な知識を問う問題を出題し、さらに別枠で、基本的な知識を利用してさらに考えて解く(考えなければ解けない)問題を応用問題として用意しています。特に応用問題については、講義に出なければ理解できない問題となっているため、講義への出席を促すものとなっています。

また、自学自習システムの問題をベースにして定期試験問題を出すことによって、学生に自学自習問題を積極的に利用してもらうようにしています。

今後も、講義と連携させることによって、学生の学力向上と民法学習への動機付けを行っていきたいと考えています。将来的には、択一問題だけでなく記述式の問題も出題できるようになると良いのではないでしょうか。

自分自身の言動に責任を持てる人間になってほしい

未成年である高校生も大学に入学してしばらくすると、20歳になり、法律上は大人として扱われます。学生だから許されるなどとは思わず、大人として行動するように心がけてください。そのためにはまず、自分自身の言動に責任を持つこと。自分が行動したり発言したりすることによってどのような影響があるのかを考えて行動し、自らの言動によって引き起こされたことに対して、逃げることなく責任を持って対処することです。法を学ぶことも、その一助となるでしょう。

また人間、ともすれば楽な方に流されがちです。簡単に手に入るものに、自分にとって本当に必要なものや大切なものはありません。簡単に手に入る、見た目だけが美しいものに惑わされないこと。そうすれば、道に迷うことはないでしょう。

Next >> 伊沢俊泰教授インタビュー

このページのトップへ

Copyright© 2007 NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY All Rights Reserved.

CONTENTS

特色GPとは？
学長・学部長あいさつ
経済学基礎知識1000題とは？
- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう！

特集1「進化する自学自習システム」
特集2「政策学基礎知識1000題」
特集3「ブレンデッドラーニング」授業体験
教員VOICE
- 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE
- 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容
イベント情報
イベント開催報告
今後の展開
お問い合わせ

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

「教員VOICE」では、経済学部各教員の担当する授業でのCCS「経済学基礎知識1000題」の利用方法などをリレー形式で毎月1人ずつ紹介します。

経済学部長
木船久雄教授
- 前編 06.11.06 UP!
- 後編 06.11.15 UP!

経済学部
児島完二助教授
- 前編 06.12.01 UP!
- 後編 06.12.15 UP!

経済学部
仮屋篤子講師
- 前編 07.01.12 UP!
- 後編 07.02.01 UP!

経済学部
伊沢俊泰教授
- 前編 07.03.01 UP!
- 後編 07.03.15 UP!

経済学部 伊沢俊泰 教授 ～前編～

「経済学基礎知識1000題」誕生のきっかけ

「経済学基礎知識1000題」のもともとのアイデアというのは、5～6年前に、私も含む若手教員（当時）の間での雑談から生まれたものなのです。同僚との会話のなかで、学生の学習意欲向上のため「ゲームセンターの仕掛けを利用したらどうか」という話になりました。次々と問題がディスプレイ画面に現れ、解答者はそれに挑戦していく。すべての問題をクリアすると得点が表示され、高得点者はランキング表に自分の名前を刻むことができる。こんな仕掛けを学内ネットワーク上に構築できないかと考えたわけです。

学習に少し遊び感覚を入れて、動機付けを行うとともに、ゲーム（択一式問題の解答）をプレイするごとに学生の基礎知識が整備されていくという狙いです。これと教室での対面授業を組み合わせれば効果が上がるのではないかと考えました。私自身はプログラミングの知識もないので、このアイデアをどう実現するのか当初は見当が付きませんでした。しかし、本学の情報教育担当の同僚教職員がこのラフ・スケッチを現実化してくれました。

講義や試験と組み合わせる「経済学基礎知識1000題」活用法

もともと名古屋学院大学は、10年以上前から全学生にノートPCを配布していました。また学生と教職員を結ぶ教育ネットワークシステムであるCCS（キャンパス・コミュニケーション・システム）もその後稼動し始めました。こうした情報環境を生かすコンテンツとして多くの教職員の努力の末「経済学基礎知識1000題」が誕生したのです。

私が思う「経済学基礎知識1000題」の利点は上の由来にあるように、学生達がはじめはゲーム感覚で取り組みながらも、やがて自学自習する習慣を身につけていく仕掛けを持っている点に尽きます。能動的な学習スタイルを生み出すきっかけになると思います。

私は、これまで1年生向けの基礎科目である「マクロ経済学」「ミクロ経済学」でこのプログラムを利用してきました。これらの科目は4年間の経済学部教育の基盤となるのでここでつまずくと後に大きく響きます。全員が十分な学習到達レベルに達するように対面講義でも問題演習を交えて丁寧にやっていますが「1000題」を復習教材として利用するよう学生に呼びかけています。また、期末試験には「1000題」の問題から一部出題するようにしています。学生にとってはこれが強いインセンティブ（誘因）になっているようです。

このページのトップへ

経済学部 伊沢俊泰 教授 ～後編～

「経済学基礎知識1000題」の導入で学生たちにも変化が

「経済学基礎知識1000題」を導入して特に大きく変化が見られたのは学力面です。以前は、経済学基礎科目の期末試験結果は、成績上位層と下位層が二極分化していて、得点分布図を描くと（得点上位と下位の）二つの山がはっきりと表れていました。この格差が大きな問題となっていたのですが「1000題」導入後は、この分布が大きく変わりました。二つの山が一つになり、二極分化の構図が消え、全体の平均点も大きく上がりました。

もちろん、前述のように「1000題」プログラムの設問を期末試験にも出したことが影響を与えているのですが、それ以外の私が作成した問題についても得点が大きく上がっており、驚きました。「1000題」で反復学習をした効果が表れたのだと思います。学習姿勢についてですが、学生がどのくらい「1000題」プログラムに取り組んだかを担当教員は閲覧できるのですが、多くの学生が何度も何度も問題群を解き尽くすほど取り組んだ様子が見て取れます。

今後も活用範囲を広げ充実したコンテンツに

私の担当科目は、まず1年生を対象に経済学部の基礎科目である「マクロ経済学（入門）」「ミクロ経済学（入門）」。2年生以上では、1年次の「ミクロ経済学（入門）」の内容をさらに進めた「中級ミクロ経済学」のほか，国と国との間の経済関係（貿易や資金取引など）を分析する「国際経済学」「国際経済政策」といった科目を担当しています。この国際経済分野が私の本来の専門分野です。もちろんこれら講義科目のほかに少人数授業のゼミナール指導科目も担当しています。

今後は、まず活用範囲をさらに広げるという意味で、上級科目である私の専門分野の「国際経済学」の授業でも「経済学基礎知識1000題」を利用するため、問題コンテンツの充実を図っていきたいですね。経済学は作図をよく用いるのですが、文字だけでなく画像コンテンツを併用した問題作成に取り組んでいます。導入・基礎科目から専門科目まで網羅していきたいと思っています。

また、よりユーザーフレンドリーな画面構成、プログラム内容になるよう学生達の声を吸い上げていきたいと思っています。「1000題」がネット学習において一種の標準仕様になることを目標にしています。そのためには私も問題をより磨き上げていく必要がありますね。同僚と協力して頑張っていきます。

このページのトップへ

Copyright© 2007 NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY All Rights Reserved.